

機能毎の病床の状況について

病院名: 吉田病院    医療圏: 奈良

			(a) ＜H28年度＞ 許可病床数	＜R7年度＞ 許可病床数	うち、最大使用 病床数 (注1)
一般 病床・ 療養 病床	高度急性期				
	回復期				
	慢性期				
	休棟中 (今後再開する予定)				
	休棟中 (今後廃止する予定)				
	(合計)(自動計算)				
精神病床					
結核病床					
感染症病床					
介護医療院					

(b) 将来 (R8/2026年度) 病床数	(b-a) H28年度からの 増減 (自動計算)

※ 用語の定義は、病床機能報告と同様です。

(注1) 最大使用病床数  
・1年間(R6.4.1～R7.3.31)に最も多く入院患者を収容した時点で使用した病床数のことです。

# 令和7年度 地域医療構想における具体的対応方針

## 1. 基本情報

病院名：社会医療法人健生会 吉田病院

医療圏：奈良

## 2. 地域医療構想の実現に向けた自院の取組について

（１）これまでの地域医療構想や昨今の受領動向の変化、2040年頃を見据えた新たな地域医療構想の方向性を踏まえ、自院が地域で担う役割等について（現状と今後の方向性）

奈良市は、人口減少に転じる中で2040年までは高齢者の急性期疾患に対応する医療機能の必要性が高いと予測されています。当院は、高齢者や障がいを持つ方々の地域での生活を支えていくために「まず診る」「援助する」、「こころもからだも診る」をスローガンに、地域の急性期医療に貢献することをめざします。

◆救急告示病院として一般急性期の患者受け入れ機能を強化します。

◆高次機能病院からの転院受け入れ及び地域の在宅医療を支える支援病院としての機能を強化します（他病院、開業医、施設等との連携強化）。

◆精神疾患や認知症の患者さんの身体疾患を受け入れる一般病棟機能を強化します。

◆認知症疾患医療センターの役割、物忘れ外来や診断・相談等の総合的な認知症医療を強化します。

◆消化器内視鏡の体制整備による消化器疾患、大腸・肛門外科、IBDの専門治療を強化します。

◆健診・がん検診とフォローアップによる全身管理、早期発見・早期治療の取り組みを強化します。

◆疾患を問わない地域緩和ケアの機能（終末期の患者さんの在宅治療や入院加療、ご家族を支えるケアとサポート）を強化します。

◆差額室料を徴収しない基本方針を堅持し、「無料低額診療事業」の推進により、経済的に困窮されている方の医療を受ける権利保障に尽力します。

◆上記を推進するための専門医の養成と「救急・外来～病棟～在宅～看取り」まで対応し、「こころとからだを診る」ことができる、地域医療のスペシャリストとして「総合診療医」「精神科専門医」「緩和ケア専門医」の養成をすすめます。

## （２）今後、増加が見込まれる高齢者救急への対応について

高齢者の地域での生活を支えていくために「まず診る」「援助する」、「こころもからだも診る」をスローガンに、地域の急性期医療に貢献することをめざします。救急告示病院として一般急性期の患者受け入れ機能を強化します。

## （３）今後、増加が見込まれる在宅医療需要への対応について

※提供体制強化や体制整備の予定等ありましたら合わせてご記載ください

病院として訪問診療を積極的に展開する方針はありませんが、身体疾患および精神疾患の方の在宅療養を支える診療所や訪問看護、訪問介護の事業所との連携を強化して後方支援の役割を果たしていきます。

## （４）今後の医療従事者の確保や医療提供の維持に向けた方策、検討の状況について

※医療ＤＸ、タスクシフト・シェア等の取組状況がありましたら合わせてご記載ください

マンパワー不足を補うため、可能な分野においてIT化をすすめていきます。また、医師から多職種へのタスクシフトや業務負担軽減をはかる補助者等の人員配置をすすめていきます。

### 3. 各領域の対応状況について

※以下[1]～[15]の領域の今後の方向性について記入してください。  
※選択肢については、あてはまるものにチェックをつけてください。

#### [1]がん

[1-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[1-2]手術の実施

消化器

[1-3]化学療法の実施

実施していない

[1-4]放射線治療の実施

実施していない

[1-5]拠点病院等の指定

指定されていない

[1-6]特記事項

当院では30年前より健康診断及び「がん検診」を重視して早期発見・早期治療に取り組んでおり、今後も維持・発展させていきます。消化器領域での機能強化をめざして2018年5月に「消化器内視鏡・IBDセンター」を開設。検診からの精査、定期検診も含めて上部内視鏡は毎年年間3000件、下部内視鏡は年間1000件を実施。当院で可能な症例は治療を実施しています。対応できない症例は専門の医療機関へ紹介していきます。「地域緩和ケア」として、がんのターミナルの方の在宅での治療も支えていく体制を強化していきます。

## [2]心筋梗塞等の心血管疾患

[2-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[2-2]24時間心血管疾患の急性期医療の実施

—

[2-3]緊急心臓カテーテル検査及び治療の24時間365日実施

—

[2-4]経皮的冠動脈形成術もしくは経皮的冠動脈ステント留置術の実施

—

[2-5]心疾患に対する外科手術の実施

—

[2-6]冠動脈バイパス手術の実施

—

[2-7]急性大動脈解離の手術の実施

—

[2-8]大動脈瘤手術の実施

—

[2-9]心血管疾患等への早期リハビリ

—

[2-10]特記事項

一次から二次の心血管疾患については「まず診る」という理念で対応し、当院では対応できない症例は高次機能病院へ紹介しています。心不全や心血管疾患について内科的治療が可能な一次から入院までを対応します。

### [3]脳卒中等の脳疾患

[3-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[3-2]脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法の実施

実施していない

[3-3]脳梗塞に対する脳血管内治療(経皮的脳血栓回収術等)の実施

実施していない

[3-4]脳出血（くも膜下出血を含む）への対応

対応していない

[3-5]くも膜下出血に対する脳動脈クリッピング術

実施していない

[3-6]くも膜下出血に対するコイル塞栓術

実施していない

[3-7]脳出血に対する開頭血腫除去術

実施していない

[3-8]脳血管疾患等への早期リハビリ

実施している

[3-9]特記事項

脳卒中の早期の急性期治療は対応できない為、早期に判断をしたうえで高次機能病院へ紹介します。急性期治療を終えた患者の転院について積極的に受け入れ、リハビリを実施し、社会生活復帰を援助します。

#### [4]救急医療

[4-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[4-2]救急告示病院の指定を受けているか？

受けている

[4-3]大腿骨骨折への対応

対応していない

[4-4]病院群輪番制への参加

参加している

[4-5]小児科病院二次輪番体制への参加

参加していない

[4-6]特記事項

二次救急病院として認知症や精神疾患なども含めた急性期疾患の一般救急受け入れを強化していきます。精神科についても、引き続き奈良県全域での救急輪番に参画して役割を担っていきます。身体科・精神科を併せ持つ機能を生かし、多疾病併存状態の高齢者救急について強化していきます。

## [5]リハビリ

[5-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[5-2]回復期リハビリ病棟入院料届出の有無

無し

[5-3]上記が有りの場合、届出病床数

—

[5-4]訪問リハビリの実施

実施している

[5-5]通所リハビリの実施

実施していない

[5-6]今後の方向性

急性期治療を終えた患者様や慢性期の疾患・症状に対応する脳血管リハ、呼吸器リハ、周術期リハ、がんリハ等を引き続き実施していきます。

## [6]在宅医療

### [6-1]当該領域について対応しているか？

※ここで言う在宅医療は「在宅医療の提供」「他医療機関等との連携」「後方支援」を含む概念とします。

対応している

### [6-2]在宅療養支援病院の届出の有無

無し

### [6-3]在宅療養後方支援病院の届出の有無

有り

### [6-4]特記事項

精神科の在宅療養患者の訪問診療を実施しています。高齢者、難病、がん等の在宅医療については法人内の各診療所、居宅支援事業所、訪問看護、訪問介護と連携しています。吉田病院としては、24時間管理の在宅患者の急性期疾患に対応する支援病院として入院受け入れや臨時往診等を担っています。

## [7]訪問看護

[7-1]病院看護師が当該領域について対応しているか？

対応していない

[7-2]同一法人内に訪問看護ステーションをもっているか？

ない

[7-3]上記でありの場合、その名称

[7-4]特記事項

法人内7箇所の訪問看護ステーションが24時間対応をおこなっており、急変時には入院受け入れや臨時往診(死亡確認も含めて)に対応しています。

## [8]ACP（アドバンス・ケア・プランニング）への取組

[8-1]「適切な意思決定支援に関する指針」（「適切な看取りに対する指針」）について  
定めている

[8-2]特記事項

2013年4月に専門の医師や看護師を中心に疾患を問わない緩和ケア医療を担う「地域緩和ケアサポートきずな」を立ち上げて、ターミナルの方へのケアやサポートに取り組んでいます。院内での学習・研修会にとどまらず、法人をあげてのケースカンファレンスの実施、奈良県やその他外部からの講師派遣要請にも積極的に対応をしています。この間、緩和ケアを学ぶ医師も増えており、高まるニーズに対応していけるよう取り組みを強化していきます。

## [9]小児医療

[9-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[9-2]小児入院医療管理料の算定

—

[9-3]新生児特定集中治療室管理料の算定

—

[9-4]医療的ケア児を受け入れている

—

[9-5]特記事項

—

## [10]周産期医療

[10-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[10-2]分娩の取扱い

—

[10-3]ハイリスク分娩管理加算の算定

—

[10-4]特記事項

—

## [11]災害医療

[11-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[11-2]災害拠点病院の指定を受けているか？

—

[11-3]DMAT指定病院の指定を受けているか？

—

[11-4]EMIS（広域災害救急医療情報システム）への参加

—

[11-5]特記事項

近隣に災害時避難施設が複数あることもあり、当院のBCPにおいて、強化・改善が必要な対応策について整備をすすめていきます。災害時において当院が果たせる役割についてさらに検討をすすめていきます。

## [12]へき地医療

[12-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[12-2]へき地医療拠点病院の指定を受けているか？

—

[12-3]特記事項

—

**[13]医師の研修・派遣機能（臨床研修の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能）**

[13-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[13-2]基幹型臨床研修病院の指定を受けているか？

受けていない

[13-3]協力型臨床研修病院の指定を受けているか？

受けている

[13-4]臨床研修協力施設であるか？

該当する

[13-5]専門研修の基幹施設であるか？

該当する

[13-6]専門研修の連携施設であるか？

該当する

[13-7]特記事項

「協力型病院」として市立奈良病院など5つの基幹型研修病院と連携し、年間25名程度のローテート研修医を受け入れています（内科、精神科、眼科など）。新専門医制度対応では精神科基幹プログラムを取得しており、毎年2～3名の専攻医を受け入れ、連携施設への研修出向等も実施しています。総合診療領域では土庫病院や大福診療所、天理よろづ病院など基幹プログラムを持つ病院の連携施設として当院の特徴ある研修プログラムを準備して専攻医を受け入れています。学会関係では2020年に緩和ケア学会認定専門医研修施設を取得し、緩和ケアを学びたい研修医の受け入れをすすめています。

## [14]医師の働き方改革

### [14-1]医師の宿日直許可の取得状況

取得済み

### [14-2]上記で一部の場合、その範囲

取得済み

### [14-3]特記事項

医師事務補助者による医師の負担軽減にとどまらず、所定労働時間の管理や時間外労働の縮減などに引き続き取り組んでいます。

## [15]看護職員の研修機能

### [15-1]特定行為研修の指定研修機関の指定申請予定はあるか？

ない

### [15-2]特定行為研修の協力施設の申請予定はあるか？

ない

### [15-3]特記事項

—